

関係各位

## ESD・持続可能な開発のための教育推進事業報告書

ESD 学校教育研究会

平素は私どものESD 学校教育研究会の活動及び持続可能な開発のための教育の10年についてご理解を頂まして誠にありがとうございます。

今回、皆様のご協力により実施できました事業について下記のようにご報告申し上げます。

## 記

## 1. 概要

名称：ESD 授業デザインフェスタ 2008

日時：8月8日(金) 13時～19時 — 9日(土) 10時～17時

場所：地球環境パートナーシッププラザ

主催：ESD 学校教育研究会

人数：8日 24名(発表者含む) 9日28名(発表者含む)

## 2. 実施内容

8日は、挨拶と当研究会による「ESDとは」の後に、「遊びでESD」のプログラムが始まった。

まず、「全世界で立ち向かう地球温暖化「あなたの」答えをゲームで探そう」として網代剛氏（産業技術大学院大学助教）、加藤太一氏（LLPまなびあそび設計室、東京大学大学院学際情報学府博士課程）と参加者によって地球温暖化問題について考えるドイツのボードゲーム「KEEP COOL」が行われた。このゲームはアメリカやEU、OPEC、途上国などのに分かれて、経済的目標と政治的目標の達成と、国際交渉をしながら環境に悪い工場から環境にやさしい工場に立て替えるなどして地球温暖化を防ぐゲームである。

次に、「まちでの環境学習“EPちゃんとの約束”」として村山史世氏（麻布大学 生命・環境科学部専任講師）より、まちなかでエコキャラやパネルシアターを使った環境学習を進めている環境教育の活動の報告があった。その後のトークセッションでこれらを受けて参加者で話し合いがされた。

9日は、「ESD授業デザイン」をテーマとして発表や討議が行われた。

挨拶と当研究会による「ESDとは」の後に、発表としてACCU 財団法人ユネスコアジア文化センター筒井清香氏の「文化に根ざしたESD—身近な気づきから始めよう」、埼玉県立小川高等学校定時制の松本浩一氏の「30世紀につながる持続可能な社会をめざして」、常磐大学の小関一也氏の「食をテーマとするESDについて」、宇都宮大学の陣内雄次氏「ESDと市民育ち」、麻布大学の村山史世氏「大学の地域共創とESD」、BRIDGEの中平博子氏、森脇佳世氏の「出前授業を通じた教育現場での地球市民教育実践報告」、持続可能な開発のための教育の10年さいたまの長岡素彦の「地域学校連携フォーラム、ESDワークショップ“未来へのアクション”」、ESD学校教育研究会代表の浅川和也氏の「ESD授業デザイン」などの発表が行われ、また、同研究会発行の年報「ESD授業デザイン2007」の内容の説明が行われた。

次にメインスピーチ「開発教育とESD」を小貫仁氏（拓殖大学国際開発教育センター）が行なった。

小貫氏は事例を述べながら開発教育について語り、「ESDにとって開発教育の視点はどうなっているか？」として不完全な開発（開発問題）の現状の根本を正面から見据えていく姿勢、弱者（貧困・格差）へのしわ寄せを重視し克服しようとする視点、学びの広がりとして、世界とのつながりやグローバリゼーションとの関係性を認識する視点などを指摘した。

また、開発教育やESDは「教育」である以上、「学びとは何か」という最初にして最後の課題が基本にあると述べた。

以降、交流ワークショップでは発表者・参加者の実践紹介からテーマを出して全員で話し合った。

この中ではESDを学校教育ですすめるには、「“学校”の力」を生かしていくことが重要であり、そのためには保護者はもちろん「学校と地域、企業、行政との協働」が必要であり、これらの事例として「食を通じて地域を持続可能にする試み」などが述べられた。

また、展示コーナーでは発表団体の他に、新しい環境学習をつくるネットワーク、カリタス女子校などの教材や事例が展示された。